

沖縄本島, 渡名喜島, 石垣島, 西表島で与那国島からの記録がないのは興味深い。

2. タムラハナコメツキ *Displatynychus tamurai* (Kishii, 1974)

1 ♀ (図 2), 鹿児島県大島郡知名町沖泊キャンプ場, 20. IV. 2017, 内藤準哉採集。

上記種と同所で採集した。本種の既知産地は奄美大島, 喜界島, 徳之島, 沖縄本島, 渡名喜島, 渡嘉敷島, 石垣島, 西表島, 波照間島, 与那国島である。

上記2種は南西諸島では広く分布が知られているが, 奄美諸島では沖永良部島と与論島で記録がなかった。形態は奄美大島および沖縄島の個体と比較したが, 差異は認められなかった。

引用文献

- 有本晃一, 2016. 西表島, 波照間島におけるタムラハナコメツキムシの記録. さやばねニューシリーズ, (21): 35.
 大平仁夫, 1999. 日本産ヒメハナコメツキ属の種について. 比和科学博物館研究報告 (38): 349-355.
 大平仁夫, 日本産オオハナコメツキ属の種について. 比和科学博物館研究報告 (38): 357-362.

(内藤準哉 260-0001 千葉市中央区都町 1-48-16)
 (有本久之 558-0052 大阪市住吉区帝塚山西 3-4-21)

【短報】神奈川県でオオシモフリコメツキの縦縞紋様の変異個体を採集

筆者は, 大変珍しいと思われるオオシモフリコメツキ *Actenicerus orientalis* (Candèze, 1889) の縦縞紋様を現した変異個体を神奈川県にて採集したので, ここに報告する。



図1-2. オオシモフリコメツキの縞紋様型変異 (神奈川県産)。

1 ♂, 厚木市荻野市谷, 12. III. 2018, 筆者採集, 有本久之保管。

体長は 16.5 mm 程で, 図 1-2 に示した通り明瞭な縦縞紋様があり, 光の当て方を変えても通常の霜降り紋様は現れない。

採集地は, 厚木市立こどもの森公園の北側に位置する荻野の里山にある湿地化した休耕田である。谷戸の最奥部の湧水流に近い場所のコケを剥がしたところ, 越冬中の本個体を発見した。越冬室のような隙間は見当たらず, 頭部を上向きにして土中に刺さっているような状態で見つかったのが印象的であった。

標本を検したところ, 上翅の斑紋以外は大平 (2005) に記載されたオオシモフリコメツキの特徴と一致しているように見え, コメツキ類の専門家である有本久之氏に種同定を依頼したところ, 斑紋以外の触角や交尾器等の特徴を踏まえて総合的に判断し, やはり, オオシモフリコメツキであるとの同定結果を得た。

Actenicerus 属は世界で 37 種が知られ, 特に日本では種分化が進み, 26 種の固有種が知られている (Oba *et al.*, 2015)。本属の種の多くは上翅に複雑な紋様の毛斑を有し, その紋様の現れ方は種内でも個体差があるが, 縞紋様のような整然とした紋様の変異の記録は, 少なくとも邦産種では知られていないと思われる。一方, 欧州に広く分布する *A. sjaelandicus* は, 通常の霜降り型に加えて, 特に東欧では縦縞紋様型も知られており (Mertlik & Dušánek, 2018), その紋様は今回の採集個体と非常によく似ている。紋様の不規則化や消失ではなく, 整然とした縞紋様が変異として稀に出現するという現象は一見理解しがたく, いかなる遺伝子的機序によるものなのか, また, *Actenicerus* 属以外の分類群でもそのような変異の例があるのか等, 大変興味深いところである。専門家による今後の研究に期待したい。

末尾ながら, 標本の種同定を引き受けて下さった有本久之氏に厚くお礼申し上げる。

引用文献

- Mertlik, J. & Dušánek, V., 2018. Elateridae (旧北区のコメツキムシに関する専門ウェブサイト). URL: <http://www.elateridae.com/> (2018年9月4日アクセス)。
 Oba, Y., Ôhira, H., Murase, Y., Moriyama, A., and Kumazawa, Y., 2015. DNA Barcoding of Japanese Click Beetles (Coleoptera, Elateridae). PLoS ONE, 10(1): e0116612.
 大平仁夫, 2005. 日本産シモフリコメツキ類の形態について (3). 南紀生物, 47(1): 11-13.

(齋藤孝明 243-0005 厚木市松枝 1-12-15-402)